社会人学生の大学・大学院修了時における潜在的効果と変化

Latent effects and changes in adult learners upon university and graduate school graduation

池水 守彦[1*] 横山 友也[1] 細田 貴明[1] 松尾 徳朗[1]
Morihiko Ikemizu[1*] Yuya Yokoyama[1] Takaaki Hosoda[1] Tokuro Matsuo[1]

[1] 東京都立産業技術大学院大学 Advanced Institute of Industrial Technology
*Corresponding author: Morihiko Ikemizu, ikemizu-m@aiit.ac.jp

Abstract In modern society, the importance of adult learners returning to universities and graduate schools has been increasingly emphasized in terms of career development and knowledge renewal. In response to globalisation, technological innovation, and the rapidly changing social structure due to declining birthrates and an aging population, the continuous acquisition of new knowledge and skills throughout one's career has become indispensable. This study aims to analyze the factors that influence adult learners' motivation and engagement in continuous learning and to clarify the underlying motivations and barriers to returning to education. In Japan, the primary challenges for adult learners include high tuition costs, long working hours, and a lack of appropriate educational programs, which may impact their participation in learning. On the other hand, there are also adult learners who actively choose to pursue further education with the goal of personal growth and career autonomy. This paper examines the latent effects and changes experienced by adult learners before enrollment and after graduation, and investigates how these factors influence their continued learning. Based on these findings, this paper provides valuable insights to support adult learners in their educational pursuits and contribute to the further promotion of recurrent education.

Keywords recurrent education; career development; adult learners

1 はじめに

現代社会において、社会人が大学や大学院で学ぶことの重要性は、従来にも増して強調されている。グローバル化、技術革新、少子高齢化といった社会構造の急速な変化に対応するためには、社会人としてのキャリアの中で新たな知識やスキルを継続的に習得することが不可欠となっている[1,2]。これにより、社会人が職業生活を通じて競争力を維持し、さらにはキャリアアップを図ることが可能となる。このような背景から、社会人の学習意欲と阻害要因の理解が極めて重要視されている。

社会人が学ぶ動機は多様である。専門知識の習得や資格取得を通じたキャリアアップを目指す者、新たなキャリアパスを模索する者、または自己実現のために学問的興味を追求する者など、個々の目標は様々である。しかし、日本における社会人の学び直しは、他国と比較してまだ普及が進んでいない。文部科学省の調査によれば、学び直しに対する主な阻害要因として「費用が高すぎる」「勤務時間が長くて十分な時間がない」「職場の理解を得られない」といった課題が挙げられている[3]。社会人が学習に取り組む際、仕事の忙しさや家庭との両立が大きな課題となるケースが多い。特に、中堅層以上の社会人にとっては、キャリアや家庭の責任が増す中で、学習に必要な時間を捻出することが難しくなっている。たとえば、仕事が忙しく、家と会社の往復だけだった、と述べる社会人もおり、時間的制約が学習参加の妨げとなることが報告されている。また、学習の成果に対する不安も社会人の悩みの一つである。学びで得たもの、感じたこととして、“自分もまだまだできるという自信がついた”、とポジティブな経験が語られるものの、卒業資格などの成果がキャリアにどのように反映されるかについての不確実さが、学習の継続に対する阻害となりうる[4]。

一方、社会人学生が学び直しを行う背景には、強い自己成長意欲やキャリア自律の意識が存在する。リカレント教育が注目される現代において、社会人学生は単なるスキルアップに留まらず、自己のキャリア形成を積極的に管理するための手段として学び直しを選択する傾向がある[2]。学習の過程において自己効力感を高め、職場での地位向上や新たなキャリア機会の獲得を目指すことが、社会人学生にとっての重要な動機付けとなっている[2]。また、オンライン教育やブレンド型学習など、学習者の多様なニーズに対応する教育手法の普及も、社会人学生の学び直しを促進する要因となっている[5]。

本研究の目的は、社会人学生の学習意欲と継続的学習に至る要因を多角的に分析し、その背景にある要因を明らかにすることである。これにより、社会人学生がどのような動機付けを持って学び直しを選択し、どのような要因が継続的な学習行動を促進または阻害するのかを理解することを目指す。そのために、本論文では、社会人学生修了者の入学前と修了後とでどのような潜在的効果や変化があったかを明らかにする。なお、本研究は、本学に設置されている高度専門職人材教育研究センターにおけるIR（Institutional Research）活動として行うものである。

2 関連研究

本章では、社会人学生の学習意欲と継続的学習に関する先行研究を整理する。まず、社会人学生が学び直しを選択する際の主要な動機として、キャリア形成、自己実現、市場価値の向上がどのように影響を与えているかについて検討する。次に、学習を継続するために必要な職場や家庭からの支援体制について、既存の研究を基に分析する。これらの研究成果を通じて、社会人学生の学習意欲と継続的学習に関する理解を深めるための理論的枠組みを提供する。

2.1 学習意欲の動機

社会人学生の学習意欲に関する研究は、キャリア形成、自己実現、市場価値の向上という3つの主要な動機に焦点を当てている。三好は、社会人学生が専門職大学院に入学する際、キャリアアップのための専門知識の習得が強い動機となっていることを示している[6]。これは、社会人学生が自身のキャリアをより高いレベルに引き上げるために、専門知識やスキルを習得する必要性を強く感じていることを反映している。また、キャリアチェンジを希望する学生にとっても、学び直しは新たな分野での成功を目指すための重要なステップであることが多い。

さらに、自己実現のための学習も重要な要因である。自己効

Received: 2024-10-30; Published online: 2025-02-28

力感の向上は、社会人学生が自分自身の成長を実感し、職場での役割を再定義するための動機として機能する。特に、職場での成功体験や学習の成果が、自信を持って新たな挑戦に取り組む原動力となる。塚原の研究では、社会人学生が学び直しを通じて自己成長を追求することが、学習意欲を高める重要な要因であると指摘されている[7]。特に、大学における専門知識の習得や広い視野を得ることが、社会人学生にとって新たな挑戦に取り組む原動力となっている。また、最新のスキルや知識の習得を通じて、職業の安定性や市場価値を高めることも、社会人学生の学習動機の一環であり、企業や社会からの評価が彼らの学習意欲を強化する要因として作用している[7]。これらの動機は、個人のニーズを社会に還元することで「知の循環型社会」の構築に貢献するという視点にもつながっている[8]。

2.2 継続的学習の支援

継続的学習に影響を与える要因として、三好は、社会人学生自身の強い成長意欲やキャリア形成への志向が、学習を続ける原動力となっていることを強調している。特に、上司や同僚からの理解と支援がある場合は学習がよりスムーズに進むが、支援がなくとも自己能力の開発を目指す意欲が社会人学生の学習継続に大きな影響を与えている[9]。職場での学習支援には、学習時間の確保、学習内容が実務に直結する機会の提供、さらには学習に対するポジティブな評価が含まれる。これにより、社会人学生は学びと仕事を両立させやすくなり、学習意欲を持続することが可能となる。一方、家庭内の支援については、必ずしも学習継続に直結する要因ではないと述べている[9]。たとえ家族の理解や協力が十分でない場合でも、強く学びたいという意欲があれば、学習を継続する社会人学生が多く見られる。三好は、学び直しの意欲と金銭的な余裕や家庭内の支援には大きな関連性がない可能性があることを指摘しており、自己成長への志向が、職場や家庭からの支援以上に学習継続の鍵を握ることを示している[9]。

塚原の研究では、企業による学習支援の重要性が指摘されており、特に社会人学生が学習の成果を職場で活かし、キャリアアップにつなげるためには、企業が学習成果を評価する仕組みが不可欠であると強調している[7]。さらに、社会人学生が学習と仕事を両立しやすい環境、例えば、夜間や土日などに授業を提供することが、学習の継続に貢献する手段として挙げられている。

3 社会人学生修了者アンケート分析

今回、筆者らは、社会人学生修了者を対象としたアンケートを実施し、社会人学生修了者の入学前と修了後とでどのような潜在的効果や変化があるかを明らかにすることに取り組んだ。以下に、取得したアンケートの分析結果を示す。

3.1 データセット

分析の対象としたデータは、株式会社インテージ社に委託した「ビジネスパーソンの学習意欲と学習成果に関する調査」のアンケートをもとにしたものである。アンケートの調査概要を表 1 に示す。

表 1 アンケートの調査概要

調査期間	2024 年 3 月 14 日～3 月 18 日
調査数	679 名
有効回答数	320 名（回収率 47.1%）
男女数	男性 202 名　女性 118 名
平均年齢	男性　48.7 歳　女性　45.7 歳

大問として 19 件の質問項目があり、選択肢に基づく 5 段階回答形式（<1: あてはまる、2: ややあてはまる、3: どちらでもない、4: あまりあてはまらない、5: あてはまらない>）、2 者択一または自由記述形式で構成されている。このうち、入学前の質問項目は大問 3 問（Q2～Q4）、修了後の質問項目は大問 3 問（Q8～Q10）であり、それぞれ表 2 および表 3 に示す。いずれも 5 段階回答形式である。入学前の Q2～Q4 は「心境」「動機」「契機」、修了後の Q8～Q10 は「修得」「実現」「縁」とラベル付けした。さらに、各大問は複数の小問で構成されている。例えば Q2 には 12 問（Q2_1～Q2_12）の小問が設定されているため、分析は小問単位で行う。有効回答数 360 件のうち、表 2 および表 3 の全項目に回答した 107 件を対象に分析を行った。

3.2 平均値分析

入学前の大問 3 問（Q2～Q4）の小問毎平均値と標準偏差を表 2 に示す。よりあてはまるに近い 2.5 より小さい値に黄色でハッチングを行った。

表 2 平均値分析結果（Q2～Q4）

Q2 大学や大学院で学びたいと考えたときの心境について教えてください。	全体平均	標準偏差
Q2_1仕事に停滞感があった	2.79	1.166
Q2_2刺激が欲しいと思っていた	2.62	1.121
Q2_3現実逃避したいと思っていた	3.43	1.190
Q2_4仕事関係以外のどこかに所属していたいと思っていた	3.13	1.150
Q2_5何かにチャレンジしたいと思っていた	2.21	1.000
Q2_6これからの人生どうしようと思っていた	2.51	1.168
Q2_7悔いのないように生きたいと思っていた	2.30	1.002
Q2_8自分の思うように働きたいと思っていた	2.37	1.014
Q2_9経験や能力を活かしたいと思っていた	2.37	1.042
Q2_10社会貢献したいと思っていた	2.71	1.133
Q2_11仕事上でできることはやりつくしたと思っていた	3.28	1.204
Q2_12これまでの仕事経験の棚卸しをしたいと思っていた	3.27	1.154
Q3 大学や大学院で学びたいと考えた動機について教えてください。	**全体平均**	**標準偏差**
Q3_1現在の職務に直接必要な基礎的な知識を得るため	2.70	1.167
Q3_2現在の職務における最新の専門知識を得るため	2.67	1.196
Q3_3現在の職場で昇進昇格したいため	3.36	1.232
Q3_4学位が欲しいため	2.66	1.165
Q3_5最終学歴を上げたいため	2.62	1.218
Q3_6資格を取りたいため	2.56	1.159
Q3_7幅広い知見・知識を得るため	2.02	0.824
Q3_8ばらばらの知識を体系化したいため	2.67	1.062
Q3_9現在とは違う仕事に就いて年収を上げるため	3.30	1.223
Q3_10現在とは違う職場・仕事に就くための準備をするため	3.06	1.287
Q3_11志を同じくする仲間が欲しいため	3.14	1.153
Q3_12社外等の人的ネットワークを得たいため	3.07	1.113
Q4 大学や大学院への受験（受講）を決めたきっかけについて教えてください。	**全体平均**	**標準偏差**
Q4_1身近に大学や大学院で学んでいる人がいた	3.20	1.349
Q4_2何もやってない先輩・同僚がいて反面教師となった	3.52	1.176
Q4_3社外や組織をまたがったコミュニティなどの活動経験が楽しかった	3.27	1.137
Q4_4近しい人に紹介された	3.50	1.169
Q4_5勤務先に紹介された	3.69	1.185
Q4_6学びたい科目や内容があった	2.22	1.040
Q4_7この人から学びたいと思う教員がいた	3.28	1.309
Q4_8給付金や助成金が充実していた	3.60	1.243
Q4_9修了生のSNSやblog等をみてひかれた	3.89	1.152
Q4_10説明会に出席してここに入学したいと思った	3.77	1.210
Q4_11通えそうな場所にあった	2.89	1.334
Q4_12学ぶための時間がとれる見込みがついた	2.72	1.212
Q4_13学ぶための費用の算段がついた	2.71	1.174

以下に特徴的な結果を大問毎に示す。

- Q2（心境）： 大学や大学院で学びたいと考えたときの心境について教えてください。

よりあてはまる項目は「Q2_5 何かにチャレンジしたい（平均点2.21）」、「Q2_7 悔いのないように生きたい（平均点2.30）」、「Q2_8 自分の思うように働きたい（平均点 2.37）」などの自分から前向きな心理状態の結果であった。

- Q3（動機）： 大学や大学院で学びたいと考えた動機について教えてください。

学びたい動機としては「Q3_7 幅広い知見・知識を得るため（平均点 2.02）」がもっともあてはまると回答されている。一方、「Q3_3 現在の職場で昇進昇格したいため（平均点 3.36）」、「Q3_9 現在とは違う仕事に就いて年収を上げるため（平均点 3.30）」など個人の利益に直接結びつく動機はあまり当てはまらない結果を示している。

- Q4（契機）： 大学や大学院への受験（受講）を決めたきっかけについて教えてください。

きっかけは「Q4_6 学びたい科目や内容があった（平均点 2.22）」と自分の希望と教育機関の提供するコンテンツが一致した結果である。逆に、「Q4_9 修了生の SNS や blog 等をみてひかれた（平均点 3.89）」、「Q4_10 説明会に出席してここに入学したいと思った（平均点 3.77）」、「Q4_5 勤務先に紹介された（平均点 3.69）」など他人の意見はきっかけになっていない結果である。

次に修了後の大問 3 問（Q8～Q10）の小問毎平均値と標準偏差を表 3 に示す。よりあてはまるに近い 2.5 より小さい値に黄色でハッチングを行った。以下に特徴的な結果について大門毎に示す。

- Q8（修得）： 社会人になってからの大学や大学院での学びで得たもの、感じたことを教えてください。

実際に学んでみて感じたことは、「Q8_10 これからもなんらかの形で学び続けたい（平均点 2.04）」、「Q8_3 視野が広がった（平均点 2.08）」、「Q8_4 新たな考え方ができるようになった（平均点 2.09）」、「Q8_9 自主的に学ぶのは楽しいとわかった（平均点 2.13）」など学ぶことの重要性であった。一方、「Q8_14 目指していた事業の起業をすることができた（平均点 3.74）」、「Q8_11 年収が増えた（平均点 3.51）」など学んだからと言って直接的利益として得たいものにはあてはまらない結果となった。

- Q9（実現）： 大学や大学院で学びたいと考えたものが実現できたか教えてください。

大学や大学院を受講して実現できたことは「Q9_7 幅広い知見・知識を得ること（平均点 2.18）」であった。一方、「Q9_9 現在とは違う仕事に就いて年収を上げること（平均点 3.64）」、「Q9_3 現在の職場で昇進昇格すること（平均点 3.53）」などの直接的利益については実現できたとは言い難い結果となった。

- Q10（縁）： 大学・大学院での卒業後（受講後）における、大学・大学院とのつながりについてあてはまるものを教えてください。

卒業後、「Q10_5 大学・大学院の発信する SNS（Facebook や X（旧 Twitter）（平均点 3.84））への参加」、「Q10_6 卒業した大学・大学院への寄付による貢献（平均点 3.80）」など、大学とのつながりを持つことに対してあまり当てはまらない結果となった。「Q10_9 同窓との付き合いを保っている（平均点 3.42）」であり、同窓のつながりも総じてあまり当てはまらない結果となっている。

表 3　平均値分析結果（Q8～Q10）

Q8 社会人になってからの大学や大学院での学びで得たもの、感じたことを教えてください。	全体平均	標準偏差
Q8_1学んでいるとき、毎日が刺激的であった	2.15	0.845
Q8_2学んでいるとき、毎日が充実していた	2.20	0.895
Q8_3視野が広がった	2.08	0.912
Q8_4新たな考え方ができるようになった	2.09	0.842
Q8_5自分もまだまだできるという自信がついた	2.37	1.033
Q8_6会社で一目置かれるようになった	3.36	1.126
Q8_7勉強の習慣がついた	2.70	0.924
Q8_8時間をうまく使えるようになった	2.70	0.954
Q8_9自主的に学ぶのは楽しいとわかった	2.13	0.859
Q8_10これからもなんらかの形で学び続けたい	2.04	0.776
Q8_11年収が増えた	3.51	1.254
Q8_12社内でやりたい仕事につけた	3.26	1.284
Q8_13やりたい仕事ができる会社に転職できた	3.50	1.320
Q8_14目指していた事業の起業をすることができた	3.74	1.341
Q9 大学や大学院で学びたいと考えたものが実現できたか教えてください。	**全体平均**	**標準偏差**
Q9_1現在の職務に直接必要な基礎的な知識は獲得できた	2.66	1.213
Q9_2現在の職務における最新の専門知識は獲得できた	2.79	1.252
Q9_3現在の職場で昇進昇格することができた	3.53	1.216
Q9_4目指していた学位を獲得することができた	2.64	1.224
Q9_5目指していた最終学歴に到達することができた	2.79	1.281
Q9_6目指していた資格をとることができた	2.89	1.276
Q9_7幅広い知見・知識を得ることができた	2.18	0.899
Q9_8ばらばらの知識を体系化することができた	2.60	0.950
Q9_9現在とは違う仕事に就いて年収を上げることができた	3.64	1.238
Q9_10現在とは違う職場・仕事に就くための準備ができた	3.43	1.311
Q9_11志を同じくする仲間を得ることができた	3.19	1.275
Q9_12社外等の人的ネットワークを得ることができた	3.01	1.240
Q10 大学・大学院での卒業後（受講後）における、大学・大学院とのつながりについてあてはまるものを教えてください。	**全体平均**	**標準偏差**
Q10_1同窓会・ホームカミングデーといった大学・大学院主催の諸行事への参加	3.59	1.310
Q10_2企業内・職域などにおける同窓の集まりへの参加	3.93	1.130
Q10_3ゼミや研究室の集まりへの参加	3.40	1.309
Q10_4クラブ・サークルといった課外活動への参加	3.83	1.137
Q10_5大学・大学院の発信するSNS（FacebookやX（旧Twitter））への参加	3.84	1.159
Q10_6卒業した大学・大学院への寄付による貢献	3.80	1.217
Q10_7身近な人に卒業した大学の関係者がいる	3.36	1.299
Q10_8大学・大学院主催の公開講座や図書館の利用	3.46	1.268
Q10_9同窓との付き合いを保っている	3.42	1.325
Q10_10恩師との付き合いを保っている	3.43	1.340
Q10_11大学・大学院と仕事上のつながりがある	3.45	1.347

さらに「Q3（動機） 大学や大学院で学びたいと考えた動機」と「Q9（実現） 大学や大学院で学びたいと考えたものが実現できたか」は動機と実現の対になっているため、小問毎の動機と実現の差を確認した結果を表 4 に示す。Q3 から Q9 を引いた値がプラスであれば期待以上の結果が得られたことを示し、マイナスであれば期待に届かなかったことを示している。0.2 以上の変化を黄色でハッチングを行った。

表 4 から、「学位取得」は目標が達成されたことで、および「現在の職務に直接必要な基礎的知識を得る」など現在の職務への活用は期待以上が得られた結果となった。一方、「現在とは違う仕事に就いて年収を上げる」など異なる職に就けるのではないかと言う期待には、結果が届いていないという結果とな

った。

表 4　Q3 と Q9 に基づく動機と結果の差異分析

	Q3平均値	Q9平均値	Q3-Q9
現在の職務に直接必要な基礎的な知識を得る	2.81	2.66	0.15
現在の職務における最新の専門知識を得る	2.80	2.79	0.01
現在の職場で昇進昇格	3.28	3.53	-0.25
学位の取得	2.84	2.64	0.21
最終学歴の向上	2.84	2.79	0.06
資格の取得	2.64	2.89	-0.24
幅広い知見・知識を得る	2.12	2.18	-0.05
ばらばらの知識を体系化	2.74	2.60	0.14
現在とは違う仕事に就いて年収を上げる	3.20	3.64	-0.44
現在とは違う職場・仕事に就くための準備をする	3.03	3.43	-0.40
志を同じくする仲間が欲しい	3.15	3.19	-0.03
社外等の人的ネットワークを得たい	2.99	3.01	-0.02

4　考察

今回のアンケート結果から、今後の研究を進めるためにいくつかの示唆を得ることができた。これらの示唆に基づき、さらなる検証や調査が必要なポイントを提案する。

まず、アンケート結果からは、社会人学生が大学や大学院で学び直す際に、前向きな心理状態が形成され、学びに対するエンゲージメントが高まる可能性が示唆された。学びたい動機は、自分が必要だと感じた知見・知識の拡充であり、過去に得た知識では対応できない業務の増加に直面していることが背景にあると推測される。この示唆をもとに、今後の研究では、受講後の成果がどのように期待を上回るのか、具体的な学習効果を定量的に測定する必要がある。

次に、社会人学生の学び直しが、昇進や昇格、起業などの短期的な個人的利益には直結していないという結果が得られた。一方、学びによる能力向上は昇進や昇格に反映されるまでに時間的な遅れがあることについて報告されている[10]。この示唆に基づいて、今後の研究では、業種による違いや企業の評価プロセスと学習成果の関係性を長期的に追跡する研究が求められる。

また、同窓生とのつながりが薄いことも示唆された。これは、社会人学生が卒業後にそれぞれの異なる目標に向かうため、積極的に交流する機会が減少している可能性がある。この示唆を踏まえて、今後の研究では、弱い紐帯がキャリアにおける支援やネットワーキングにどのように貢献するかを明らかにすることが重要である。

さらに、修了生と大学・大学院との関係が薄れていることも明らかとなった。特に、経済的・時間的な制約や学びたい内容が大学・大学院にないことが原因である可能性が高い。この示唆をもとに、今後の研究では、修了生が他の教育機関やオンライン学習を選択する背景や、大学・大学院が修了生に対して提供できる継続的な学習機会について検証し、大学・大学院との関係を強化する施策を検討することが必要である。

最後に、「Q3 大学や大学院で学びたいと考えた動機」と「Q9 大学や大学院で学びたいと考えたものが実現」を比較し、動機と実現の差異を確認した結果、現在の職務への活用に関しては動機を上回る成果が得られた。一方、異なる職に就くという動機に関しては、実際の成果はその動機を満足しなかったことが示された。これにより、学び直しが現在の職務において有効である一方、転職や新しい職への進展に関しては、学びだけでは期待するほどの結果に結びつかない可能性があることを示唆している。この結果は、これまでの考察と一致しており、学び直しが昇進や転職などの短期的な成果に直結しないことを再確認するものである。特に、個人の期待と成果のギャップが見られる場合、企業側の評価が時間をかけて反映されるため、学びの効果が即座に現れないことも考えられる。

5　まとめ

これまでの調査を通じて、社会人学生の学習意欲と学習成果に関する動機や結果を明らかにした。この調査では、社会人学生が自身で必要と感じた知識やスキルに基づき、主体的に学習を選択していることが確認された。また、学習の成果が現職で有効に活用されており、継続的な学習が自己成長に不可欠であることも明らかになった。

一方で、卒業後・修了後の大学・大学院との関係が希薄である点も指摘されている。リカレント教育の拡大に伴い、今後は社会人学生を引き続き取り込むことが大学経営にとって重要な課題となる。そのため、大学・大学院は卒業生が次に求める学習ニーズを理解し、これに応じた継続的な学習機会を提供する必要がある。これにより、卒業生との長期的な関係が強化され、大学の経営の安定化にも寄与するだろう。

今後の研究としては、学び直しが長期的なキャリア成長にどのように影響するかを追跡調査する必要がある。また短期的な成果が見られない理由をさらに深く検証する必要がある。さらに、卒業生と大学との関係強化のための新しい学習プラットフォームの構築や、転職やキャリアチェンジにどのように結びつくかについても、さらなる研究が求められる。継続して研究を行っていきたい。

参考文献

1. 文部科学省. 平成 27 年度社会人の大学等における学び直しの実態把握に関する調査研」. 2016.　[Online] Available at: https://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/itaku/__icsFiles/afieldfile/2016/06/02/1371459_01.pdf（2024 年 10 月 18 日確認）
2. 内閣府. 平成 30 年度　年次経済財政報告. 2018. p.178,　[Online] Available at: https://www5.cao.go.jp/j-j/wp/wp-je18/pdf/p02023.pdf（2024 年 10 月 18 日確認）
3. 文部科学省. 社会人の学び直しに関する現状等について. 2015. p.10. [Online] Available at: https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/koutou/065/gijiroku/__icsFiles/afieldfile/2015/04/13/1356047_3_2.pdf（2024 年 10 月 18 日確認）
4. 佐藤　厚. 職業資格の日本的特質―国際比較の視点から『生涯学習とキャリアデザイン』. 2020. Vol.18. No.1. p.133-154.
5. Liu Y, Ma S and Chen Y. The impacts of learning motivation, emotional engagement and psychological capital on academic performance in a blended learning university course, Front. Psychol.,2024, 15:1357936. doi: 10.3389/fpsyg.2024.1357936
6. 三好きよみ. 社会人が大学や大学院での学習行動へ至る背景と動機についての調査結果. 産業技術大学院大学紀要. 2021. No.15. p.213-218

7. 塚原修一,濱名篤. 社会人の学び直しからみた大学教育. 日本労働研究雑誌, 2017, 687 p.27-36
8. 文部科学省. 新しい時代を切り拓く生涯学習の振興方策について～知の循環型社会の構築を目指して～（答申）.2008. [Online] Available at: https://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/__icsFiles/afieldfile/2008/12/18/080219_01.pdf（2024 年 10 月 18 日確認）
9. 三好 きよみ. 社会人の専門職大学院入学の背景と学習行動―PBL 科目による修了者を対象として―. 公益社団法人日本工学教育協会 2020 年度工学教育研究会講演論文集. 2020. p.246-247
10. 内閣府. 新しい資本主義のグランドデザイン及び実行計画 2024 年改訂版基礎資料集. 2024 年 6 月. p.27. [Online] Available at: https://www5.cao.go.jp/keizai-shimon//kaigi/minutes/2024/0621/shiryo_01.pdf（2024 年 10 月 18 日確認）